

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物	■2面	タイからの報告
	■3面	NAM 派遣カンパ
	■4面	国際署名・東京都 AALA
	■5面	トランプ大統領に抗議
	■6、7面	列島 AALA
	■8面	わたしと AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2019年5月1日 No.706

## 気候変動を阻止しよう！ 未来のためにぼくらは動く



ドイツと日本の集会を報道するしんぶん赤旗

温暖化抗議 日本の若者も



### 世界300都市以上で高校生・青年がストや街頭行動に参加

3月15日、ベルリンやパリ、ロンドンなどヨーロッパの各都市で高校生や小中学生、大学生などが、いままぐ気候変動阻止の行動を起こすよう大人たちに求めて、ストや街頭に繰り出す行進をしました。

この運動は2018年スウェーデンの高校生グレタ・トゥーンベリさんが議会前で1人ではじめた行動が大きな波となっていま世界に広がっています。ドイツでは35都市2万6000人が参加し、「気候は私たちの卒業を待ってくれない」の横断幕を持って行進。イギリスでは、政治が気候変動に取り組んでいないことに抗議して授業をボイコットする「全国ストライキ」が行われ、1万人以上が約60都市で参加し、「地球を救え！」と声をあげました。

今回のデモは「気候のための青少年ストライキ」として実行され、ベルギーではブリュッセルなどの都市で、若者らが約6週間にわたり毎週木曜日に抗議行動を実施しました。

ニュージーランド、オーストラリア、韓国でもおこなわれました。ニュージーランドの首都ウェリン

トンでは生徒や保護者ら約2000人が議会に向け行進。アードーン首相もストを支持すると表明しています。ソウルやプサンでも高校生らがストに参加し、「政府は積極的対応を」などのプラカードを掲げました。

日本では、150人の学生や外国人などが東京・渋谷の国連大学前に集まり、次々にスピーチし、英語で「What do we want? Climate justice!」とコールして青山通りをパレードしました。

昨年10月に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の「1.5度特別報告書」では世界の温室効果ガスの排出を50年には実質ゼロにする必要を述べています。しかし、日本政府は長期戦略を提出しておらず、原発再稼働推進、石炭火力発電頼みから脱却していません。今年2月、3月に世界各地で行われた青年たちの「気候変動ストライキ」は、各国の政府に対して温暖化対策を迫るものであり、パリ協定の目標達成への真剣な努力を求めています。

## タイ総選挙結果

## 王政、仏教、民族の尊厳を守る国民の選択

宇崎 真 (ジャーナリスト)

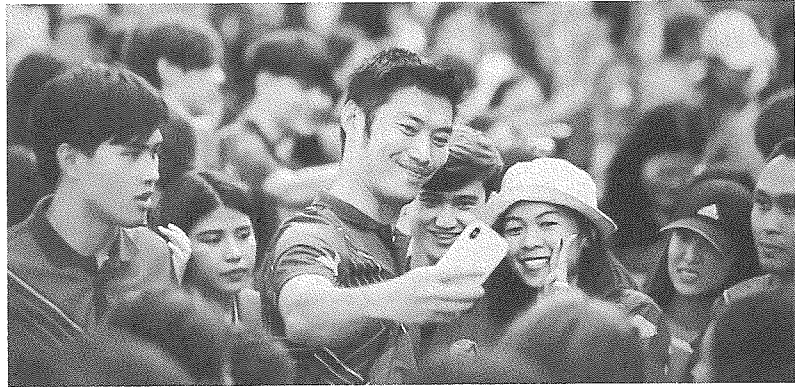
軍クーデターから5年経ち、8年ぶりに行われたタイ総選挙の結果はネーション紙(タイの有力英字紙の一つ)の予測記事を除き、各種世論調査も内外マスコミの予想も読み違えていたことを示した。全国の得票数でみると、タクシン派の「タイ貢献党」を押さえてプラユット首相(元軍司令官)を首相候補とした「国民と国家の力党」が最多数(約843万票)を集めた。

選管の公式の暫定選挙結果発表を見る限り、注目すべきは二点あるとみていい。一つは、軍部の政治支配への批判は大方の予想より弱かったという点だ。これは赤シャツ対黄色シャツの暴力的示威(首都焼き討ち、空港占拠等など)にみられる政治不安、社会混乱への批判が根強いということだろう。それと比較すれば、軍政下であっても社会の安定、政治対立が表面化し過激化しない局面の方がまだましという判断があると思われる。「国民と国家の力党」の得票率は23.7%であるが、連立政権に参加が見込まれる政党の議席を併せるとぎりぎり過半数となるだろう。

プラユット氏は軍の高級幹部のなかでは利権と距離をおいてきた人物であり、王室(枢密院)の信任厚く軍へのならみが利き、それゆえ「余人をもって代え難い」と広範な国民からみなされている。枢密院議長プレム氏とプラユット氏の影響力は甚大であり、タクシン派に対しては追及の手を緩める気配はない。

## タクシン氏はどんな人物か

タクシン氏はアジア通貨危機の



躍進した「新未来党」の  
タナトーン党首

タイ社会が生んだ風雲児であり、タイ政治史の特筆すべき人物である。だが筆者のみるところ、多くのマスコミ、研究者はそのタクシン政治を過大評価もしくは美化していると考えざるを得ない。これは筆者がタイに四半世紀住んでみてきた一結論である。タクシン氏は農民、貧しい庶民の利益を代表し旧支配層に挑んだ政治家という見方がかなり定着しているようだが、果たしてそうなのか疑問は多い。結論から言えば、氏はタイが「中進国」を脱却していくための新型の「開発独裁」を進めようとしていたのであり決して民主主義の旗を掲げることもなかった。国自体を株式会社化しそのCEOたらんとして改革を進めようとした。その過程で極端なネポティズム(縁故主義)、利益誘導型政治、言論抑圧、汚職蔓延、人権侵害(麻薬戦争の名で2千名殺害)が起きた。「タクシンが考え我々が実行する」と謳ったインラック政権は文字通り閣議に海外亡命中のタクシン氏がスカイプで登場。「妹に指示したが正確に君たちに伝わっていない。だからこうして直接伝えたい」という事実を公開したりした。当初のタクシン政権にはビジョンがあった。だが時の経過と

ともに、それは崩れ人気取り政策、バラマキ政策が主流となった。「米価買取り政策」はその最悪の産物である。タクシン氏の改革ビジョンに共鳴し参加した元学生運動家、共産党幹部、経済専門家、原理仏教活動家らは殆ど全て離れていった。

## 新未来党は青年層のなかでブームに

「30パーツ医療政策」「一村一品」は現在も継続しておこなわれている。それはタクシン政治の「遺産」でありその功績はだれもが評価する。だがその30パーツ政策は医療体制の歪み(国公立病院と私立病院格差等)医療関係者への過度の負担(大量の辞職、海外への頭脳流出など)を引き起こした。保健省と医療関係者の圧倒的多数が反タクシンの立場になったのは当然の成り行きであった。むしろ軍政批判票を取り込んだのは「新未来党」だった。青年層のなかでは一種のブームにもなった。「タイ貢献党」の古い体質に幻滅もしくは不信を抱くひとびとから新たな期待を得たともいえる。だがこの人気は一過性なのかどうか慎重にみていく必要がある。この政党の人材、経験、力量が、波乱と

投票所に並ぶ若い有権者の列



困難なタイ政治のなかで引き続き存在感を高めていけるのかどうか、ブームが一過性にならないか注視していく必要があるだろう。

タイのアイデンティティーは

東南アジアはタイを除きみな植民地支配の歴史をもつ。そのくび

きを脱す苦難の時代があり独立の英雄が生まれた。ベトナムにホーチミンあり、フィリピンにホセ・リサルあり、ミャンマーにアウンサン将軍がある。タイにはそれがない。タイ近現代史の英雄は奴隷解放、学校教育開始等で「近代化の父」と称されるラーマ五世

(チュラロンコーン大王)である。上にいう各国の独立の英雄はいずれも人生や命をかけた。国と人民のため自己を捨てた。歴史はそれを記録した。タクシンは一度も己を捨てることがなかった。その点歴史的人物にはなりえない。

タイのアイデンティティーは王制、仏教、民族の尊厳であり、この枠組みを崩す社会は国民の望むところではないといえよう。タイ国民は調和折衷を貴ぶ民である。急速な変革は好まない。その文脈でみていくと、今回の選挙結果はタイ国民のとった自然の選択なのではないか。

(4月13日記)

非同盟諸国首脳会議 (NAM)

代表派遣募金のお願い

日本 AALA は、今年 10 月 25 日 (金)、26 日 (土) アゼルバイジャンの首都バクーで開催される第 18 回非同盟諸国首脳会議 (NAM) に日本 AALA の代表を派遣する予定です。つきましては、代表派遣の募金を訴えるものです。目標額は 30 万円です。1 口 1000 円で何口でも結構です。

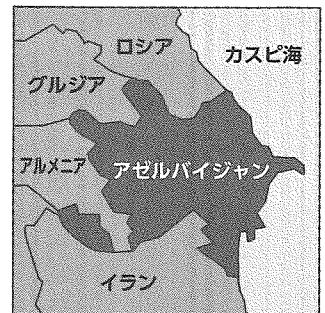
日本 AALA は、NAM 発足以来、首脳会議のオブザーバー組織の一員です。1995 年の第 11 回非同盟諸国首脳会議 (カルタヘナ) に参加してから、2016 年 9 月第 17 回会議 (ベネズエラ) まで代表を派遣してきました。17 回会議では日本 AALA の代表 2 名は会議合間を利用して、日本の米軍基地の実態、辺野古新基地建設反対のたたかい、日本 AALA の「東アジアを平和の共同体に」提言、国際署名について英文の文書を各国の代表に手渡して意見交換しました。世界の連帯運動の前進に貢献できたと思います。

今回の非同盟諸国首脳会議は中央アジアのアゼルバイジャンで開催されます。アゼルバイジャンについては日本 AALA 機関紙 3 月号、4 月号に詳細を掲載しました。なにかと出費がかさなり厳しい状況ではありますが、みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。同封しました郵便局の「払込取扱票」でお送りください。

日本 AALA 講演会

アゼルバイジャンの今を理解するために

2011 年に NAM に参加したアゼルバイジャンの現在について駐日アゼルバイジャンの臨時代理大使ファリド・タリボフ参事官にお話していた



できます。日本ユーラシア協会堀江則雄理事長がアゼルバイジャンをはじめとした中央アジアの非核・平和の動きをお話します。

6/24 月 14:30 ~ 17:00 (開場 14 時)

東京労働会館 地下会議室

(JR 大塚駅南口 徒歩 7 分)

●講師 ファリド・タリボフ  
駐日アゼルバイジャン臨時代理大使

●解説 堀江則雄  
日本ユーラシア協会理事長

\*講演後に質疑応答を予定 \*入場無料

# 東京都 AALA 「第5次国際署名」

## 5000筆を目標に！

東アジアを「不戦、平和、協力、繁栄の共同体にする」この壮大な目標をかかげた署名活動は2015年にはじまり、5年目を迎えました。これは非核・非同盟の日本をめざす日本 AALA が、日本と東アジアの平和を求め、ASEAN（東南アジア諸国連合）が東アジアの平和秩序の構想の実現に向けて外交努力を重ねてきている動きを歓迎し、世界に呼びかけてスタートさせた運動です。

東京都 AALA は当初からこの運動に力を入れとりくんできました。2015年は在京のマレーシア大使館に届けましたが、2年目の2016年のラオス、3年目のフィリピン、4年目のシンガポールの各訪問ツアーには、毎年、東京から複数名が参加してきました。この4年間でマレーシア、ラオス、フィリピン、シンガポールに届けた個人署名数は日本 AALA の総計で約5万筆。東京都 AALA は9273筆になります。

昨年からの朝鮮半島情勢の激変を見ると、私たちの理想とする平和な東アジアは必ず実現可能な課題であると思います。これまで4年間の ASEAN 諸国への働きかけに確信をもって一層のとりくみが求められています。第5次国際署名は5000筆の目標を目指してとりくんでいます。

今年は1月からスタートが遅れましたが、次のようにとりくみをしています。

### 駅頭宣伝で AALA の存在を市民に広げて 署名宣伝行動

西東京支部では、以前からとりくんでいる署名宣伝行動を今年も2月26日、西武池袋線ひばりヶ丘駅南口でおこないました。米朝首脳会談の直前だったこと、沖縄県辺野古への米軍基地移設をめぐる県民投票の結果、埋め立てはやめろとの県民の声が示されたこともあり、これまでになくチラシの受け取りもよく、いつもより多くの署名が集まりました。2回目は4月23日におこないます。

東京都 AALA 本部では3月28日夕方、理事会メンバー7人が参加して新宿駅東口で署名宣伝行動をおこないました。のぼり旗と横断幕をかかげて、朝鮮半島情勢の変化、非核・平和の東アジアは実現可能であること、安倍



(上) ひばりヶ丘駅での署名活動

(下) 新宿駅東口での署名活動



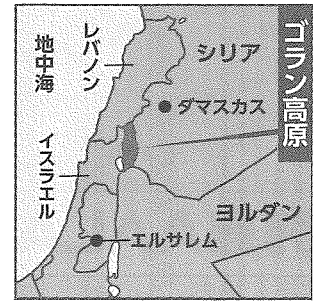
9条改憲反対、「戦争する国づくり」反対を訴え、チラシを配布し署名の協力を訴えました。署名をしてくれた人からは日本 AALA はどういう組織なのかを聞かれるなど AALA の存在を知らせる場にもなりました。

### 東京の中央団体、労働組合、 各地域の団体に団体署名と個人署名を要請

東京都 AALA 本部では、「第5次国際署名のお願い」という要請文書と署名用紙、返信用封筒を入れて、130団体へ送付しました。また、各支部では、地域の団体や



# トランプ大統領の 「ゴラン高原 イスラエルに主権」 表明に抗議する (事務局長談話)



アメリカのトランプ大統領は、3月21日、「52年経った今、アメリカがイスラエルのゴラン高原に対する主権を全面的に認める時が来た。」と唐突にツイッターで表明し、25日、イスラエルのネタニヤフ首相とホワイトハウスで会談、「イスラエルの主権を認める」文書に署名しました。日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（日本 AALA）は、トランプ大統領の言動は武力によって主権国家の領土を奪い併合する行為を容認するものであるとして、これに強く抗議するものです。

イスラエルは1967年の第3次中東戦争でシリアからゴラン高原を占領。その後国連安保理は決議で「戦争による領土の取得は受け入れられない」とし、イスラエルに対し、占領した領土からの撤退を要求しました。1973年の第4次中東戦争ではシリア軍を退け、翌年、両国は停戦合意し、全長70キロの非武装地帯を設けました。以来、イスラエルは入植活動を進めてきました。1981年、イスラエル議会は、ゴラン高原にイスラエルの「法と司法、行政」を適用する法案を可決し、併合しました。国連はこの年、安保理決議第497号でイスラエルのゴラン高原併合は「無効で国際的な法的効力を持たない」と定め、当時のレーガン大統領はこの決議に賛成しました。

国連と国際社会は、イスラエルに主権があるとは認めていません。レーガン大統領以降、オバマ大統領も2016年の国連安保理決議に賛成してきており、トランプ大統領の表明は歴代のアメリカの政権の立場をも覆すものに他なりません。

日本 AALA は、トランプ大統領の一方的な言動は国際法と国連決議に違反し、平和を脅かすものであるとして、重ねて強く抗議します。

2019年3月26日 日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

日本 AALA は3月26日、上記の抗議文を駐日アメリカ大使館に郵便とファックスで送付しました。

## 第5次国際署名を すすめるために

### 日本 AALA 事務局からのお願い

- 「国際署名」用紙は日本 AALA のホームページからダウンロードしてください。
- 「国際署名」をすすめるビラもホームページからダウンロードして活用してください。
- 埼玉県労連から約260筆の「国際署名」が日本 AALA 事務局に郵送されてきました。労働組合、教職員組合、女性団体、各県の友好団体に協力を要請しましょう。

理事の活動分野や趣味の会など、お付き合いのある方々へ国際署名を渡して協力をお願いしています。

3月末、機関紙4月号に署名用紙と返信用封筒を折り込んで、すべての会員、読者に署名を集めるとりくみのお願いをしました。毎日のように返信封筒が戻ってくるようになりました。

### 学習会、講演会、あらゆる集会などで 署名を訴えて集める

支部、連絡会主催の学習会、講演会では、チラシと署名用紙を入れて参加者に署名してもらっています。また、毎月第3日曜日におこなわれている「米軍横田基地の撤去を求める座り込み」、5月はメーデー会場での署名宣伝行動、「横田基地もいらない市民交流集会・プレ集会」の会場などで集めます。

これまで集約した数は目標にはほど遠いですが、これから成果が表れてくると思います。

(事務局長 松井幸博)



## 大阪

### 春を呼ぶつどいで連帯

1月27日に「おおさか AALA 2019 春をよぶつどい」をおこないました。

会員同士の楽しい学習と交流。会員以外の人にも呼びかけて会員拡大にもつなげようと企画しました。つどいの第一部はうたごえ。「さかなんこ」さんのデュエットで「若者たち」の演奏。長年争議支援行動で歌っている市民合唱団ピースコールは、たたかひのなかで創作した「人として」や平和の歌「咲いた咲いたよ」の演奏。韓国の「真実は沈まない」（ローソク革命で生まれた歌）や南米の「花祭り」は参加者全員で合唱しました。参加した合唱団員の大半は AALA の会員です。

第2部は常任理事森川泰明さんの特別報告「この目で見てきたボリビア、ペルー」でした。現地で撮影してきた写真を映しながらのお話は、いながらにして旅をしているような臨場感が溢れるものでした。

第3部は日本コリア大阪の理事長から最近の韓国情勢についてのお話を聞き、国際署名をシンガポールに届けたときの話を西野事務局長次長から、また沖縄の報告を小松副理事長から聞きました。

参加者は32人で会員以外の人でも数名いましたので、入会を働きかけています。「こんな肩のこらない楽しい学習・つどいはまた参加したい」の声もあり、今後も企画したいと思っています。

昨年からは月1回続けている対話型の学習会「AALA カフェ」は



、秋庭稔男著「私と日本 AALA の60年」と堤未果著「日本が売られる」が終わり、次年度からは参加者の希望で「ソウルの市民民主主義、日本の政治を変えるために」（白石孝著）をはじめます。1

人で読むのと違い、同じ内容を読んでも見方、読み方が微妙に異なり、より深く読み取る・理解できるのがこのカフェの魅力だと感じています。

（事務局長 上村得世）

## 千葉

### 趙景達さん講演会に50人余

千葉県 AALA は、昨年10月から新しい会期（17年目）がはじまり、とくに年初からの朝鮮半島の平和への動きに着目して、11月総会講演として川田忠明さんに「非核・平和の北東アジアへ」をテーマにお話していただきました。

平和的に政権交代を実現させ、文在寅大統領を生み出した韓国の市民社会の力に触れながら、さらに国連総会での文大統領の「（朝鮮半島の）劇的な変化は平和を願う世界の人々の応援のおかげ」という言葉を引用され、情勢を大局的にどう見るかを教えられました。国連で採択された核兵器禁止条約、いままさに発効に向けて世界のあちこちで動いていることの意味を改めて思いました。

今年は統一地方選挙、参議院選挙と選挙中心の動きになるため、昨年末にテーマを決め講師依頼もおこないました。やはり、朝鮮半島の動き、とくに韓国の民衆運動について知りたい、朝鮮半島の動きについて在日の方はどうとらえているのだろう、直接聞いてみたいということで、朝鮮民衆運動史が専門の趙景達（チョ・キョンドル）さん（千葉大教授）をお願いすることになりました。ちょうど2019年は、3・1独立運動100周



年にあたり、この運動が「ろうそく」革命の原点と言われていることもあり、グッドタイミングの企画でした。参加者は53名。最近にはない多さで、約6割が会員ではない方でした。朝鮮半島の市民運動のあの力はいったいなんなのかを知りたい、多くの人の思いと合致したのでしょうか。

講演内容は、機関紙4月号から4回連載します。そして、未会員の参加者にも機関紙を送り、改めてじっくり読んでもらって、会員になってほしいと呼びかける予定です。

統一地方選挙が終わって5月、千葉県メーデーでの第5次「国際署名」のとりくみが、毎年の署名開始日。これから、県下のおもだった団体を訪問し、署名へのとりくみをお願いします。依頼文、団体署名、個人署名をセットにし、必要な所には返信用切手を貼った封筒も用意します。やはり、大きな団体の協力は欠かせません。地道に毎年とりくむことで、「国際署名」の意義が伝わっていくのではないかと思います。

（事務局長 上田敦子）

## 富山

## 国際署名、ブロック集会、共同行動進める

富山 AALA は昨年、国際署名をすすめるため、諸団体・会員への要請、集会での依頼をおこない、新規に個人 385、団体 10 筆（累計 2261 筆）いただきました。議長国シンガポールに国際署名を届ける 11 月の訪問団員として松浦事務局長が参加、4 月に報告会を開催します。今年はとりくみを 4 月からに早め、昨年以上をめざします。

昨年 12 月には、2 年ぶりに北信越ブロック集会を富山で開き、日本 AALA の田中靖宏代表理事の講演のあと、組織強化拡大など

意見を交わしました。2 日目ははじめて現地見学を企画し、イタイイタイ病関係地を回りました。ブロック集会是近隣で集まりやすく、各県との交流で励まされるよい機会でした。

共同の活動では、安保廃棄県実行委員会、「戦争する国」づくり反対共同行動実行委員会、「市民アクションとやま」に引き続き参画して、9 条改憲反対の活動に積極的にかかわりました。また市民組織「オールとやま県民連合」にも会員が参画、公開フォーラムや全県キャラバン宣伝などをおこないました。日中友好協会、原水協、原発をなくす県連絡会にも参画し、毎年 3 月の「さようなら原発



集会」などにとりくみました。

独自企画では、映画「それでも夢がある HOPE」上映、エスニック料理の旅、青年との戦争遺跡スタディハイクにとりくみました。

会員の高齢化が進み、依然、減少傾向を打破できていませんが、活動を原則的に展開するなかで拡大にとりくんでいきたいと思えます。（事務局長 松浦晴芳）

## 辺野古の新たな工区への土砂投入に断固抗議する (事務局長談話)

安倍政権は 3 月 25 日、米軍基地建設のため辺野古の海域への新たな土砂投入を強行しました。2 月 24 日の沖縄県民投票で示された「新基地ノー」の圧倒的な民意をも踏みにじり、玉城沖縄県知事による工事中止の 1 カ月の協議の要請を無視した安倍政権の暴挙に対し、日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（日本 AALA）は、断固として抗議し、土砂投入の即時中止を求めます。

辺野古の埋め立ては、赤土交じりの土砂を含むなど、違法なものであるばかりか、サンゴやジュゴンをはじめとする希少生物を絶滅

に迫りやる重大な環境破壊行為です。加えて政府も認めた海底の軟弱地盤の存在により、2 兆 5 千億円もの莫大な費用と 13 年以上の歳月を要する新基地建設工事は、常識ではあり得ないものです。

安倍政権は、浅瀬の辺野古側の埋め立てによって工事進展を演出しているものの、水深のある大浦湾側の工事の目途はまったく立っていません。これは、「できるところから少しでも前に進めたい」と述べた 25 日の岩屋防衛大臣の発言によっても明らかです。玉城沖縄県知事は、軟弱地盤改良工事のための工法変更を認めないと言明しています。各メディアの全国世論調査によっても、安倍政権の辺野古新基地建設を強行する施策に対し、反対が賛成を大きく上回っています。

日本 AALA は、安倍政権の新たな工区への土砂投入に抗議し、即時中止を求めるとともに、辺野古新基地建設の中止と普天間基地の閉鎖・撤去を求める玉城知事を初めとする沖縄県民と全国の人々と連帯し、たたかいを強める決意を表明するものです。

2019 年 3 月 26 日 日本 AALA 連帯委員会



キャンシュワブゲート前で抗議する県民  
(名護共同センターニュース 230 号より)

日本 AALA は 3 月 27 日、上記の抗議文を首相、防衛相、沖縄防衛局長にファックスで送付しました。

# オスパールコーヒーを飲んで、ほっと一息!

オスパールブレンドとマラゴジペは皆様に愛飲されています。とくに、マラゴジペは、ニカラグアで採れるコーヒー豆で、フルーティでほどよい酸味が特徴です。(200g、1320円)

オスパールコーヒーのギフトセットが  
全15種類からえらべます

3品セット: 3,370円  
6品セット: 6,290円 (箱代が別に必要)



4/27 ~ 5/6 まで営業を休み、5/7 から再開します

(株) オスパール Fax: 049-254-8158 電話: 049-254-6241

おまかせ

- 5月3日(金) 13:00 ~ 「平和といのちと人権を! 5・3憲法集会 2019」 有明・東京臨海防災公園
- 5月15日から 岐阜 AALA 韓国ツアー
- 6月2日(日) 13:20 ~ 16:30 東京都 AALA 総会 記念講演 大西広慶応大学教授 (日本 AALA 常任理事)
- 6月8日(土) 13:30 ~ 16:30 「東北アジアに非核・平和の確立を! 市民連帯行動&シンポジウム」  
パネリスト 日韓それぞれ3名を予定  
星陵会館 (都立日比谷高校となり、東京メトロ丸の内線赤坂見附駅下車7分)

(掲載希望する場合は事務局におしらせください)



## AALA で異文化との 「対話と尊敬」

私が AALA に出会ったのは4年ほど前です。当時、民青同盟の専従をしていてその縁で AALA に入りました。その後、核兵器禁止条約に関する国連会議 (2017年7月) に参加する機会があり国連で議論されている「核兵器根絶のためのホンキの議論」を目の当たりにしてから海外の文化や政治などにとっても強い興味を持つことになりました。興奮状態で核兵器禁止条約の会議の議論や様子を動画に撮影

しインターネットにUPすると様々な方から講演依頼がくるようになり、AALA のみなさんの前でも講演させていただきました。この経験が自分自身を成長させる機会になり感謝をしています。

すると埼玉 AALA の方から「今度はフィリピンに行かないか?」と声をかけていただき、フィリピンのツアーに参加させていただきました。フィリピンでは現地の文化や原発視察やスラムに住む子どもとの交流など、普通の観光ツアーでは絶対に目にする事ができない貴重な経験をしました。フィリピンに送り出されていた埼玉 AALA のみなさんには心から感謝しています。

現在、世界情勢はトランプ大統領、イギリスの EU 離脱など主要な先進国のニュースに隠れているものの AALA 地域でも様々なことが起きています。そんな情報を

キャッチすることができるのが AALA の魅力だと思います。今、特に私が興味をもっているのは ASEAN などで行われている「対話による平和構築」の活動です。

折しも朝鮮半島で南北首脳会談、米朝首脳会談など北朝鮮を取り巻く情勢が劇的に変化していく中で日本も ASEAN をモデルにアジアの関係各国と「対話による平和構築」する関係を築いていてもらいたいと思っています。

最後に、私自身、まだまだ勉強不足のところもあり、もっとも海外への視点を持って日々生活していきたいと思っています。グローバルズムと日本では叫ばれています但其の本質は「儲け」が動機だと思います。私はそうではなく、異文化との「対話と尊敬」がもっと必要だと思っています。その機会ときっかけをくれるのが AALA です。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階  
電話: 03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>  
FAX: 03 (3357) 6255 E-mail: [info@japan-aala.org](mailto:info@japan-aala.org)  
振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円 (送料62円)